

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26 - 4	中学校	美術科	美術	1 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美術 727	美術 1		

I. 編修の趣旨及び留意点

「うつくしい！」をさがしにいこう

・生徒の視点を大切にした教科書

——等身大の生徒の視点を大切にし、生徒が自分の思いや願いを尊重して学習できる教科書を目指しました。

・授業で十分に活用できる教科書

——学習内容やねらいを明確にして構成や内容を整理し、機能的で使いやすい教科書を目指しました。

・暮らしや社会とつながる教科書

——生活や社会と関わる美術の働きを取り上げ、学習内容を生活に生かせる教科書を目指しました。

II. 編修の基本方針

1 生徒の視点を大切にした教科書

- 美術は特定の人だけのものではなく、誰もが心豊かに生きていくために必要なものだとすることを、生徒が実感できる教科書を目指しました。美術の専門的な知識だけでなく、生徒の体験や生活に根ざした内容を取り上げるとともに、掲載する生徒作品の数や大きさにも配慮し、等身大の中学生の視点を大切にしました。
- 生徒が主題を生み、試行錯誤の中で表現していく過程そのものや、制作中のまなざし、作品が完成した際の喜びの表情を取り上げました。生徒が自己の思いや表現を肯定し、学習に対する主体性を喚起し、生涯を通して美術を愛好する心情を培うことを意図しました。

2 授業で十分に活用できる教科書

- 全体の構成や内容を整理し、学習指導要領の目指すことを、生徒・教師が理解しやすいように示しました。『美術1』『美術2・3』の2分冊の構成とし、学校の実情に沿って題材や活動内容を選択できるようにしました。
- 身に付けたい力や学習のねらいを明確にするために、各題材には「目標」や、〔共通事項〕に関する問いかけを明示しました。また、「発想・構想を広げるためのヒント」や巻末の「技法や用具の使い方」を充実させました。

3 暮らしや社会とつながる教科書

- 生徒が日常生活やそれぞれの将来において、美術科で身に付けた力を生かすことができるよう、美術が私たちの暮らしや社会を美しく豊かにすることを実感できる教科書を目指しました。「生活に生かそう」マークを設け、生徒が制作した作品を身近に飾ったり、日常的に活用したりする例を具体的に示しています。
- 『美術1』の目次には生徒と保護者に向けた文章を掲載し、美術科での学びが学校だけでなく、暮らしや社会との関わりの中でも生かされるよう配慮しました。

Ⅲ. 対照表

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.2～4	はじめに	感じたことを話し合おう	○生徒自らが考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、導入部分を重視した。巻頭文として「うつくしい」を掲載し、美術の中で真理を追求していく態度が、学年の導入の授業から自然に培われていくように工夫した。——【第一号】	・P.2～4 ・P.5～7
P.5～7		美術って何だろう？		
P.8～11	絵や彫刻など	見て描く楽しみ	○自主・自律の精神を養うために、各題材の目標の文頭にチェックを入れる欄を設け、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかどうかを確認することができるように工夫した。——【第二号】	・P.8～21 ・P.28～29
P.12～13		心安らぐ私の風景	○美術の学習が、豊かな情操と道徳心を培うことにつながっていることを意識できるように、ページ左下に適宜、「道徳との関連」マークを示し、道徳の学習と関連する内容を記した。——【第一号】	・P.14～15 ・P.18～19 ・P.28～29
P.14～15		人のしぐさを捉える	○それぞれの生徒の個性を大切に、創造性を培うことができるよう、多様な方法でつくられた作家や児童・生徒の作例を示すとともに、適宜「作者の言葉」を添え、作者の考え方に共感し、尊重する態度を養うことができるようにした。——【第二号】	・P.10 ・P.13 ・P.14～15 ・P.16
P.16～17		写してあらかず版画の魅力		
P.18～19		見つけた、触れた、ひらめいた！	○自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うために、生徒どうしがかかわり合い、作品について話し合う活動などをうながすように配慮した。——【第三号】	・P.15 ・P.22～27
P.20～21		形を丸ごと感じてみよう	○自然を大切にすることを養うために、自然の美しさに気づくことができる題材を設定し、その学習を通して自然を大切にすることを培われるように配慮した。身の回りの自然をスケッチする活動や、流木や葉など自然の材料を生かしてつくる活動、地域の材料を生かした作例を積極的に紹介した。——【第四号】	・P.12～13 ・P.18～19 ・P.20～21 ・P.22～27 ・P.28～29
P.22～27		特別展示室 風神雷神、自然と人と	○伝統と文化を尊重する態度を養うために、我が国で大切にされてきた伝統文化を積極的に取り上げた。——【第四号】	・P.16～17 ・P.22～27 ・P.28～29
P.28～29		自然とともにある日本の美		

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.30～33	デザインや工芸など	文様、飾りの小宇宙	○生活との関連を重視し、つくった作品を飾ったり使ったりすることや身近な人へ贈るなどのコミュニケーションを深める活動を積極的に取り上げ、実生活で果たす美術の役割を具体的に示した。——【第二号】	・P.30～33 ・P.36～37 ・P.38～39 ・P.40～41
P.34～35		絵文字がしゃべりだす	○職業への意識や勤労を重んずる態度が養われるように、美術家やデザイナー、工芸家や建築家など、社会の中で活躍するつくり手の活動や言葉を紹介した。——【第二号】	・P.31 ・P.34～35 ・P.38～39 ・P.41
P.36～37		気持ちを伝えるデザイン	○美術文化を通して自然を大切に育てる態度を培うために、「文様」、「木工芸」、「焼き物」など、自然を取り入れ発展してきた美術文化を紹介した。——【第四号】	・P.30～33 ・P.38～39 ・P.40～41 ・P.42～43
P.38～39		木のぬくもりと暮らす	○「地域の伝統工芸」や「祭りや風習」など、郷土で大切に育まれてきた美術文化を紹介し、それらを愛し、大切に育てる態度を養うことができるように配慮した。——【第五号】	・P.30～33 ・P.37 ・P.38～39 ・P.40～41 ・P.44～45
P.40～41		生活の中の焼き物	○我が国だけでなく、他国の文化も尊重する態度が養われるよう、日本と西洋の作例だけでなく、アジア諸国を始め、さまざまな地域の作例を取り上げた。また、それらを比較したり共通点を示したりする題材を設定した。——【第五号】	・P.30～33 ・P.44～45
P.42～43		原寸大で鑑賞しよう 火焰型土器		
P.44～45		アジアをつなぐ仮面の舞		
P.46～47		学習を支える資料	発想のためのスケッチブック 三沢厚彦	○個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うために、彫刻家・三沢厚彦氏がどのように発想・構想し、創造的な作品にあらわすかを例として取り上げた。——【第二号】
P.48～49	鉛筆やペンで描く		○自主及び自律の精神をもって学習を進められるように、巻末に「学習を支える資料」を設け、生徒自らが必要ときに技法や用具の使い方などを参考にできるようにした。——【第二号】	・P.48～49 ・P.50～51 ・P.52～53 ・P.54～55 ・P.56～57 ・P.58～59 ・P.60～62 ・P.63～65 ・P.66～67
P.50～51	絵の具で描く			
P.52～53	さまざまな技法で描く			
P.54～55	文字をデザインする			
P.56～57	粘土でつくる			
P.58～59	木でつくる			
P.60～62	色と光の特徴を知ろう			
P.63～65	形と材料の特徴を知ろう			
P.66～67	体験しよう！ 美術館			

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 今日的な教育課題への対応

[特別支援教育への配慮]

- 教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から専門家による校閲を受け、すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

[伝統文化の尊重]

- 日本美術の作品を多く掲載し、伝統文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるよう配慮しました。日本の国宝に指定されているものは、作品名に「日本の国宝」マークを添えて示しました。



日本の国宝

[小学校 図画工作科との接続への配慮]

- 『美術1』冒頭のオリエンテーションでは、幼少期の表現から図画工作科での学習を振り返るとともに、中学校の美術科で学ぶ内容を概観し、見直しをもって美術科の学習に入れるよう配慮しました。

[道徳教育との関連]

- 道徳の学習と関連するページの左下には「道徳との関連」マークを示し、道徳学習と教科の関連を扱えるようにしました。各題材で「他者への思いやり」「人権」「平和」「伝統文化」「自然」「環境」など、道徳の学習に関連する内容を積極的に取り上げました。
- 全体を通し、東日本大震災を受けての美術やデザインの取り組みを紹介し、困難な状況にある他者の実情や気持ちに共感し、寄り添う美術の例を示しました。



道徳との関連

[ICT環境の活用]

- 作品制作の中でコンピュータを使用する活動や、インターネット等で展覧会の情報収集を促す活動、写真を利用した作品や鑑賞レポートの作成など、ICT機器を積極的に活用する例を取り上げています。

[キャリア教育の視点]

- 生活の中の美術の働きに生徒が関心をもつように、「生活に生かそう」マークを始め、生活や社会との関わりの中で存在する美術を随所に取り上げ、生涯にわたり美術を愛好する心情が育つよう配慮しました。

[人権上の配慮]

- 【みんなの工夫】で取り上げる生徒や、教科書全編にわたって登場するキャラクターは、性別による偏りがないようにしています。また、取り上げる作品の著作者についても、性別による偏りがないようにしました。

[安全・防災教育への配慮]

- 制作の際の安全についての注意事項は「安全の注意」マークを添えて示しました。また、公共空間の雰囲気を作る美術の試みや災害と関わるデザインなど、安全や防災に関して役割を果たす美術を取り上げました。

2 授業のイメージがつかめる目標やヒント

[目標・〔共通事項〕]

- 各題材に目標を記し、授業のねらいをわかりやすく示すことで、生徒が目的意識をもち自律的に学習できるよう配慮しています。目標の文頭にはチェック欄を設け、学習後に生徒が自らの到達度を振り返ることができるようにしました。
- 各題材に〔共通事項〕に関する問いかけを入れ、生徒が形・色・材料・光について考えることを促しました。

[発想・構想のヒント]

- 表現中心の題材の随所に、「発想・構想のヒント」を設けました。生徒一人一人が自分なりの主題を生みだし、個人の感情や能力を生かして表現を追求する際の手助けとなるよう配慮しています。

[「生活に生かそう」マーク]

- 美術科で学習したことを自らの生活でも生かし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育成することができるようにするため、教科書の随所で生活に生かせる美術の活動を取り上げ、マークでこれを示しました。

3 発想や構想を支える内容の充実

[4ページ題材]

- 「見て描く楽しみ」「文様、飾りの小宇宙」など、表現中心の題材の一部に、4ページ構成の題材を設けました。4ページの紙面を生かし、題材のテーマに沿った多くの作品や図版、活動例を豊富に提示することで、表現の可能性を広げ、生徒一人一人が創造性を培う助けとなる構成になっています。

[【みんなの工夫】]

- 4ページ題材には【みんなの工夫】を設けました。男女一名ずつの生徒の作品づくりの過程を追い、主題の生成から、試行錯誤を経て完成に至るまでの様子を丁寧に示しました。表現の参考になるとともに、個人によって異なる感性を尊重し、生徒が安心して自分の表現を追求することができるように配慮しました。

[発想のためのスケッチブック]

- 『美術1』では、彫刻家の三沢厚彦氏が作品を発想し構想していく際の流れを、作家自身の言葉や、スケッチブックとともに記載しています。主題を生み出す際の参考になる考え方やスケッチブックの活用例を示しました。

4 生徒の心を揺さぶる鑑賞ページの充実

[巻頭「うつくしい!」]

- 見開きで作品を大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動を意図した巻頭のページを設けました。『美術1』では、作品を見ることを楽しみ、感じ取ったことを自由に話し合える作品として、マルク・シャガールの「人生」を取り上げました。
- 作品とともに、巻頭文として谷川俊太郎氏による「うつくしい!」を取り上げ、鑑賞をより深めるとともに、美術科の学習を通して、真理を追求していこうとする態度が自然に培われていくことを意図しました。

[特別展示室]

- 「特別展示室」は両観音のページ構成で、生徒の興味・関心を喚起する、大胆なレイアウトを試みました。生徒が自らの言葉で説明・批評し合う鑑賞の活動がより充実することを意図しました。
- 「特別展示室」では、美術作品とあわせて詩を取り上げ、生徒が作品に共感を抱くことができるように工夫しています。『美術1』では「風神雷神、自然と人と」と題し、俵屋宗達の風神雷神図屏風を掲載しています。あわせて、風神・雷神をテーマにしたアーサー・ビナード氏の詩を掲載し、生徒が作品をじっくりと鑑賞し、想像力を働かせるきっかけとなるよう意図しました。

[「原寸大で鑑賞しよう」]

- 1点の美術作品を原寸大図版で掲載する「原寸大で鑑賞しよう」という題材を設けました。『美術1』では国宝の火焰型土器を原寸大で取り上げています。1点の作品を深く鑑賞することで、細部にわたり工夫を凝らした作者の心情に思いを馳せるとともに、美術文化を理解し、尊重する態度の育成を意図しています。

5 巻末の「学習を支える資料」の充実

- 表現技法や用具の扱い方、形・色・材料・光に関する巻末の資料のページを充実させ、表現と鑑賞の双方に生かせるよう意図しました。
- 生徒自らが必要ときに発想・構想のヒントを探したり、技法や用具の使い方などを参考にしたりできるように、基礎的な技法や資料を『美術1』の巻末にまとめて掲載しています。学年が上がっても、『美術1』を資料として引き続き参照することで、自主的に学習を深めることを可能にしました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
26 - 4	中学校	美術科	美術	1 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美術 727	美術 1		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習指導要領と教科書の関連

- 中学校美術科の学習を通して、生徒が美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を身に付け、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことができるように、教科書全体を通して教科目標達成を心がけました。

2 教科書の構成

〈全体の構成〉

- 第1学年で学習した内容が第2・3学年の内容につながり、深まるように、学年の系統性を配慮して構成しました。第1学年では小学校図画工作科とのつながりを意識し、基礎となる資質や能力の定着が図れるような題材を設定しています。第2・3学年は、第1学年で身に付けた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関係などに視野を広げられるような内容で構成しました。また、第2・3学年を1冊にまとめ、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるようにしています。

〈各冊の配列〉

- 各冊は、「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」で構成し、学習を通して身に付けたい力や授業の流れをイメージしやすいようにしました。
- 学習の中心となる題材は、「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」に大きく分け、それぞれのバランスや配列を考えるとともに、相互に関連を図れるようにしています。

3 各領域の内容と特色

〈「A 表現」について〉

- 「表現中心の題材」では、「発想・構想の能力」と「創造的な技能」とを関連して扱えるよう、目標や活動を示し、相互の資質や能力が一層高まるように配慮しました。
- 「表現中心の題材」では、「描く活動」と「つくる活動」のいずれもが経験できるように、作品の選定や取り上げる活動のバランスに配慮しました。
- 「表現中心の題材」の一部に、4ページ構成の題材を設けました。題材のテーマに沿った多くの作品や図版、活動例などを掲載し、表現の可能性が広がるよう配慮しました。
- 4ページ構成の題材には、男女一名ずつの生徒の制作過程を追った【みんなの工夫】を設けています。【みんなの工夫】では、主題の生成から試行錯誤を経て完成に至るまでの様子を丁寧に示し、生徒の表現の参考になるよう配慮しました。
- 「発想・構想の能力」を育むために、「発想・構想のヒント」や【みんなの工夫】など、生徒が発想を広げたり構想を練ったりする際のヒントを随所に盛り込んでいます。
- 「創造的な技能」を育むために、巻末の「学習を支える資料」で、技法や用具の扱い方などを取り上げました。ま

た、関連する「表現中心の題材」の右下には、「学習を支える資料」で説明している技法や用具の扱い方などの該当ページを示し、生徒がそれを参考にして創意工夫できるようにしています。

- 全体を通してさまざまな画材や技法、「映像メディア」など、多様な表現方法を取り上げ、生徒が主題や自分のイメージに合わせて表現方法を選択できるように配慮しました。

〈「B 鑑賞」について〉

- 全体を通して「説明し合う・批評し合う鑑賞」「比較して味わう鑑賞」「知識・理解を深める鑑賞」「表現との関連を重視した鑑賞」など、切り口の違う多様な鑑賞活動を示しています。
- 両観音ページを生かした「特別展示室」や、作品を原寸大で掲載した「原寸大で鑑賞しよう」など、生徒の興味・関心が高まるよう美術作品の見せ方を工夫しています。
- 制作者である作家や生徒の心情や意図を理解するための「作者の言葉」を随所で紹介し、鑑賞活動が深まるように工夫しました。
- 全体を通して、我が国で大切にされてきた伝統と文化を積極的に取り上げました。なかでも文化財保護法に基づき日本の国宝に指定されているものについては、作品名に「日本の国宝」マークを添えて示しています。
- 日本と西洋の作品だけではなく、アジアをはじめ、さまざまな地域の作品を取り上げ、幅広い視野での鑑賞活動ができるような作品選定を心がけました。

4 学習効果を高めるための、構造上の工夫点

〈「目標」〉

- 主として「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」には、題材名の横に「目標」を明示し、身に付けたい力や学習のねらいが明確になるようにしました。「表現中心の題材」では「関心・意欲・態度に関する目標」「発想・構想に関する目標」「創造的な技能に関する目標」「鑑賞に関する目標」の四つを示し、「鑑賞中心の題材」では、「関心・意欲・態度に関する目標」と「鑑賞に関する目標」の二つを示しました。
- 「目標」の文頭にチェックを入れる欄を設け、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかどうかを確かめることができるようにしました。

〈「共通事項」〉

- 「目標」の下に〔共通事項〕に関する問いかけを記し、全ての学習活動の中で常に〔共通事項〕の内容を意識できるようにしました。
- 〔共通事項〕に関する問いかけは、「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」のどちらにも記すことで、表現と鑑賞の相互の関連を図り、学習の効果が高まるようにしました。
- 巻末の「学習を支える資料」内に、「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」を設け、形や色、材料や光などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりすることができるように工夫しています。

心安らく 私の風景

自分の好きな風景を描いてみよう。心安らく場所やよく目にする何気ない風景などを描くのもいい。新たに探すのもいいだろう。描くうちに感じ取る心が高まって、新しい発見があるかもしれない。

場所が決まったら、そのよさを十分に引き出す方法を考えながら描いてみよう。絵の雰囲気は全体と部分の関係や、鉛筆や絵の具の使い方などで大きく変わる。自分らしい、とっておきの絵に仕上げよう。

目標

- 自分の好きな風景を探してみよう。
- 風景のどこに心引かれたのか考えながら構想を練ろう。
- 鉛筆や水彩絵の具などの使い方を工夫して描こう。
- 作品を見て、その場所を選んだ作者の気持ちを感じ取ろう。

Q 風景の、自分が心引かれた部分はどんな構図や色であらわせるだろう？

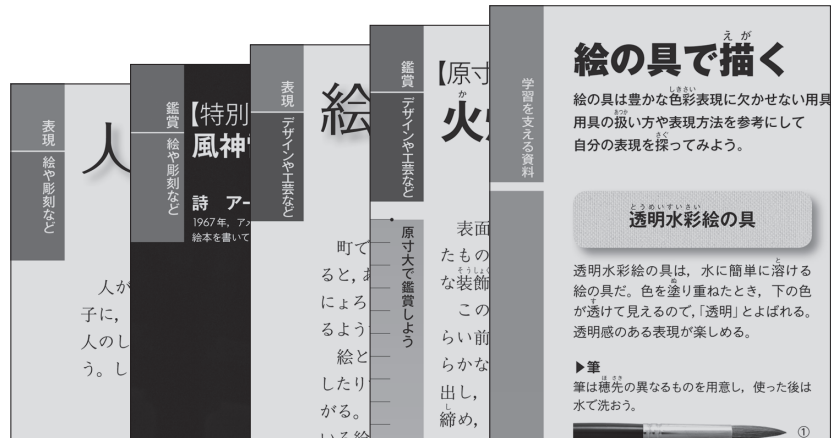
『美術1』P.12

〈目次〉

- 目次は「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の学習指導要領の他、「はじめに」「学習を支える資料」などが色帯で即座に認識でき、また、表現中心、鑑賞中心の題材が形で識別できる記号であらわされています。

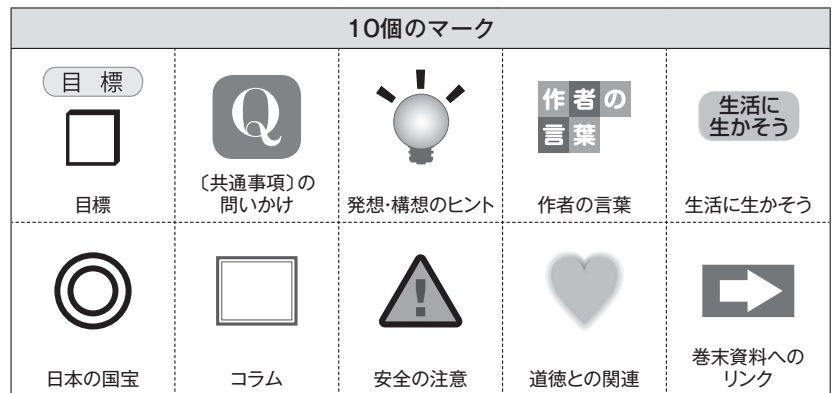
〈インデックス〉

- インデックスは目次と連動しており、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の学習指導要領の項目と、「表現中心の題材」、「鑑賞中心の題材」、そして「学習を支える資料」などが一目で分かるデザインとなっています。
- インデックスについては、色覚特性の観点からの校閲を行い、色や文字を工夫しました。



〈10個のマーク〉

- 目標、〔共通事項〕の問いかけ、発想・構想のヒント、作者の言葉、国宝、コラム、安全の注意、道徳との関連、巻末資料へのリンク等、全10個のマークで学習しやすい教科書を目指しました。
- 「生活に生かそう」マークを設け、暮らしや生活の中で生かせる美術の活動を明示しました。



5 充実の鑑賞ページ

〈巻頭「感じたことを話し合おう」〉

- 見開きで作品を大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動を意図するとともに、生徒の発達段階を意識して作品を選定しました。『美術1』では、作品を見ることを楽しみ、感じ取ったことを自由に話し合える作品として、マルク・シャガールの「人生」を取り上げました。
- 上記の作品とともに巻頭文として谷川俊太郎氏による「うつくしい」を取り上げ、鑑賞をより深めるとともに、学年の導入から美術の中で真理を追求していこうとする態度が培われていくことを意図しました。

〈巻頭「美術って何だろう？」〉

- 巻頭の片観音ページでは、学年初めのオリエンテーションの授業での使用を意図し、3年間の学習の中で学ぶ内容や、生活や社会の中での美術の働きを、生徒の発達段階に合わせて構成しました。『美術1』の「美術って何だろう？」では、小学校図画工作科と中学校美術科のつながりや生涯学習の視点をもって編修しました。

〈「特別展示室」〉

- 「特別展示室」は両観音のページ構成を生かしたレイアウトを試みました。生徒の興味・関心を喚起するとともに、説明し合う・批評し合う鑑賞の活動がより充実することを意図しました。
- 「特別展示室」は、テーマにふさわしい美術作品と詩を取り上げ、生徒が共感を抱くことができるように工夫しました。『美術1』は「風神雷神、自然と人と」と題し、自然とともに生きてきた日本人の感性をテーマとしました。
- 風神雷神像とともにアーサー・ビナード氏による詩を掲載し、生徒の鑑賞の手助けとなるよう工夫しました。

6 巻末の「学習を支える資料」の充実

〈発想のためのスケッチブック〉

- 「発想のためのスケッチブック」では、彫刻家・三沢厚彦氏のスケッチブックや言葉を掲載し、生徒が発想を広げたり構想を練ったりする際の参考になるようにしました。

〈「技法と用具」・〔共通事項〕〉

- 「技法と用具」に関する資料では、第1学年において基礎的な技法や用具の使い方の定着を図れるよう、鉛筆やペン、水彩絵の具やアクリルガッシュ、粘土、木材の扱い方の他、指導する機会の多い「レタリング」「モダンテクニック」を新たに紹介しました。
- 「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」では、〔共通事項〕に関連する内容を取り上げ、それを表現や鑑賞の活動に生かせるようにしました。特に「色相環」は全ての指導で活用できるよう、引き出していつでも参照できるようにレイアウトするとともに、色覚特性の観点から12色相の色名を記載しました。

〈美術館の活用〉

- その他「体験しよう!美術館」という「鑑賞中心の題材」を設け、美術館を活用した鑑賞活動が深まるように配慮しました。

7 その他の内容と特色

〈言語活動の充実に向けた視点〉

- 「作者の言葉」を随所で取り上げ、言語を通して制作者である作家や生徒の心情や意図がより理解できるように工夫しています。
- 感じ取ったことを説明し合う鑑賞の活動での使用を意図し、作品をページ大の大きさなどで取り上げ、言葉で説明する前に、その作品から全体や細部までさまざまな印象を感じ取ることができるようにしています。
- 自分がつくった作品を手渡したり、説明し合ったりする活動を随所に設け、コミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を期しました。

〈安全指導への配慮〉

- 「学習を支える資料」では、安全についての注意事項を「安全の注意」マークで示しました。特に彫刻刀や電動糸のこぎりなど、安全な使い方が求められるものについて記しています。

〈文字〉

- 読みやすさに配慮して、本文や解説文などの文字を、適切な大きさにするとともに、独自に開発した読みやすい書体を採用しています。
- 教科書上での表記を統一するとともに、未習漢字や固有名詞などには読み仮名を振り、学習がより円滑に進むように配慮しました。

〈製版・印刷・製本〉

- 高品質な作品画像データを使用し、印刷では製版と印刷の緻密な色調整を行い、美術作品などの原画の色彩をできる限り忠実に再現するとともに、質感も再現するようにしました。
- 本文用紙には発色のよいコート紙を用い、色彩再現性・鮮明度を向上させています。

〈環境への配慮〉

- 環境に配慮した紙と、植物油インキを使用しています。

Ⅱ. 対照表

美術1

ページ		題材名等	学習指導要領の内容		
			A 表現	B 鑑賞	〔共通事項〕
P.2～4	はじめに	感じたことを話し合おう		(1)ア	(1)アイ
P.5～7		美術って何だろう？		(1)アイ	(1)アイ
P.8～11	絵や彫刻など	見て描く楽しみ	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.12～13		心安らぐ私の風景	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.14～15		人のしぐさを捉える	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.16～17		写してあらかず版画の魅力	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.18～19		見つけた、触れた、ひらめいた！	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.20～21		形を丸ごと感じてみよう	(1)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.22～27		特別展示室 風神雷神, 自然と人と		(1)アイ	(1)アイ
P.28～29		自然とともにある日本の美	(1)ア	(1)アイ	(1)アイ
P.30～33	デザインや工芸など	文様、飾りの小宇宙	(2)アイ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.34～35		絵文字がしゃべりだす	(2)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.36～37		気持ち伝えるデザイン	(2)ア (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.38～39		木のぬくもりと暮らす	(2)アウ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.40～41		生活の中の焼き物	(2)アウ (3)アイ	(1)ア	(1)アイ
P.42～43		原寸大で鑑賞しよう 火焰型土器	(2)ア	(1)アイ	(1)アイ
P.44～45		アジアをつなぐ仮面の舞	(2)ア	(1)アイ	(1)アイ
P.46～47		発想のためのスケッチブック 三沢厚彦	(1)アイ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.48～49	学習を支える資料	鉛筆やペンで描く	(3)アイ		(1)アイ
P.50～51		絵の具で描く	(3)アイ		(1)アイ
P.52～53		さまざまな技法で描く	(3)アイ		(1)アイ
P.54～55		文字をデザインする	(3)アイ		(1)アイ
P.56～57		粘土でつくる	(3)アイ		(1)アイ
P.58～59		木でつくる	(3)アイ		(1)アイ
P.60～62		色と光の特徴を知ろう	(1)アイ (2)アイウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.63～65		形と材料の特徴を知ろう	(1)アイ (2)アイウ (3)アイ	(1)アイ	(1)アイ
P.66～67		体験しよう！ 美術館		(1)イ	(1)アイ